

第30回職業リハビリテーション研究・実践発表会 パネルディスカッションⅡ

# 大学等における発達障害学生への連携支援について

NPO法人 [Liaison](#)  
就労移行支援事業所リエゾン  
管理者 中山 肇

# ～就労移行支援事業所リエゾンの実践～

1

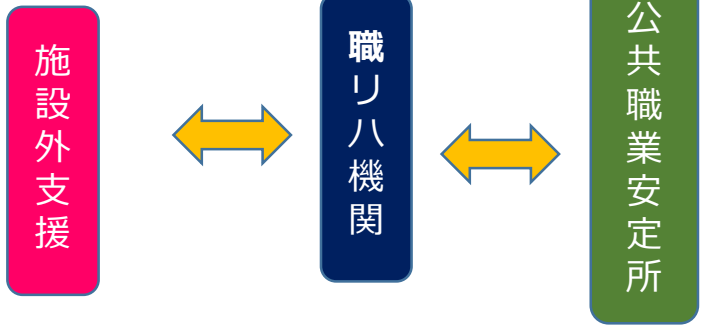
## 事業環境

社会参加への中間的環境  
 物理的環境  
 人的環境  
 合理的配慮（障害者差別解消法における）

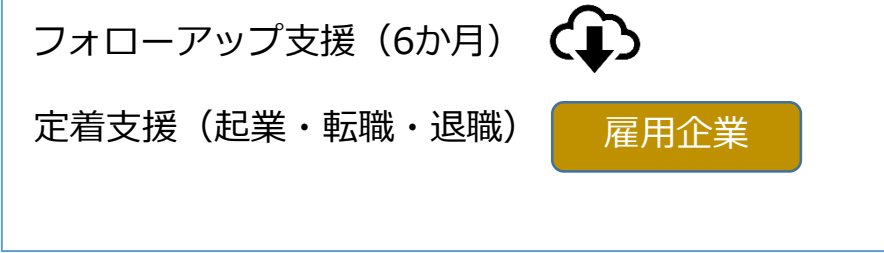
2



## ジョブマッチ（適職）



## 定着支援



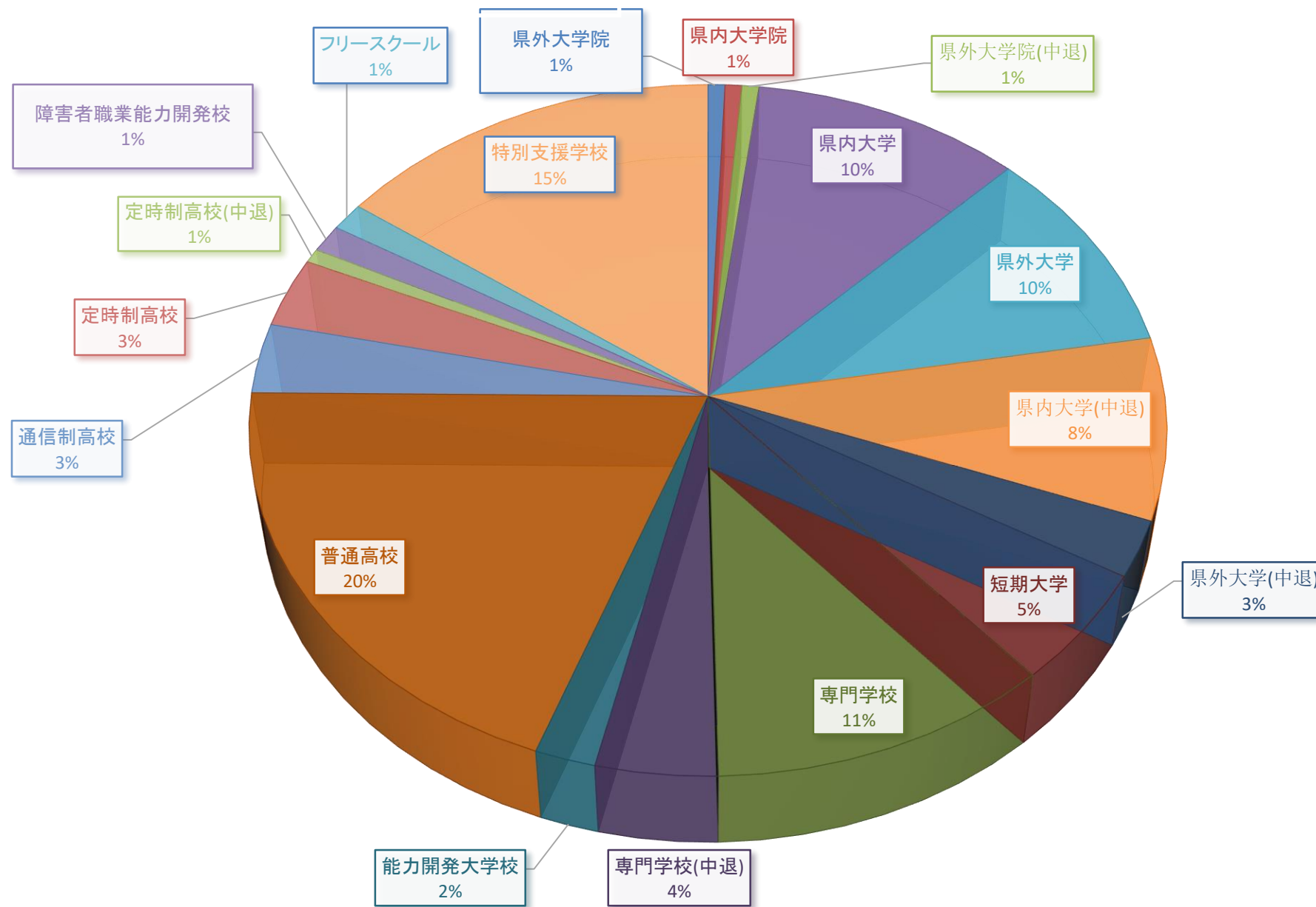
3

障害者職業センター 就業・生活支援センター

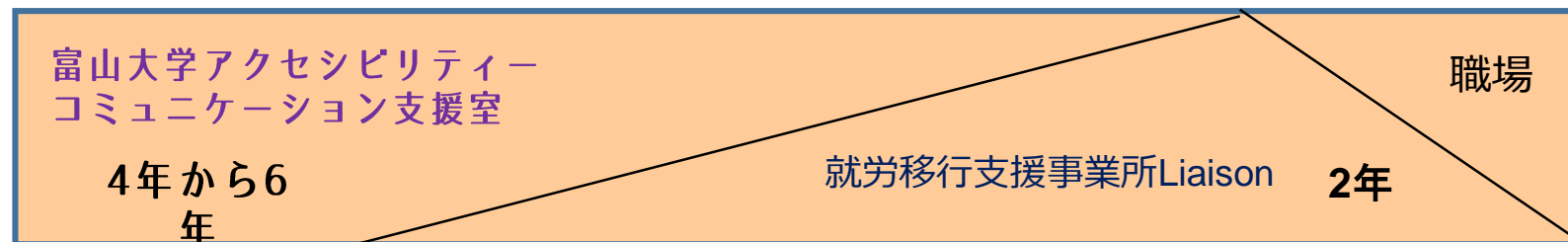
4

# リエゾン利用者の最終学歴

n = 154



# 富山大学アクセシビリティコミュニケーション支援室との連携支援



## 【富山大学アクセシビリティコミュニケーション支援室】

一斉授業・小グループでの授業  
ランチラボ（グループワーク）  
個人面談

- ・ナラティブ・アプローチ
- ・トータル・コミュニケーション・サポート
- ・環境に対する適応能力の把握

対話を手段として用いながら、支援のニーズを明らかにし、具体的な支援の方策を策定し、支援を実践しつつ振り返るといった作業が継続的に行われる。



支援方法  
情報の共有

【リエゾン】 就労に対するアセスメントとモニタリング

【職場】 仕事の提供・労働管理・合理的配慮



# 福祉サービスの利用前の連携

1. 富山大学支援室の事業所訪問
2. 10日間の体験実習(冬期休暇を利用)
3. 当事者と大学支援室、福祉事業所との実習振り返り  
【プロフィール・エピソードの把握】

就労経験の説明

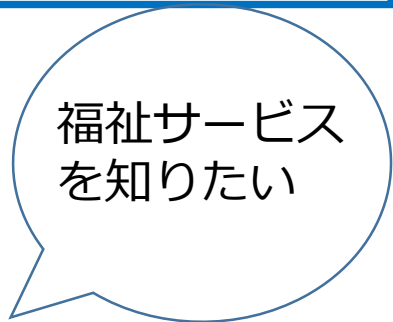
支援センターより福祉サービスの必要性の説明

大学におけるエピソードや、支援ポイントの説明 (言語伝達)



通訳的役割  
不安の軽減

訓練内容の説明  
訓練環境の確認  
利用者、職員の実態把握  
※体験利用の提案



福祉サービスを  
知りたい

# 福祉利用開始の時

1. 体験修了後の自己選択（利用希望あり）

2. 富山大学支援室（体験中の観察）

＊ 訓練の様子や支援課題等の振り返り

【連携体制の確立】

定期に大学で相談を受ける、定期の連絡・訪問日の確認

相談専門員の家庭環境の把握(福祉サービス利用準備)



通訳的役割

仲介者の役割

大学支援室  
支援センターに相談したい。

個別支援計画

担当窓口の固定化(利用開始時)

随時相談・定期的相談の機会を約束



# 訓練実施期

1. 福祉事業所内外での就労支援プログラムの実施
  2. 富山大学支援室での定期相談
    - ★環境に慣れる事で日々安定し訓練を続ける
    - 報連相の苦手はあるが、聞く能力の高い事を把握
    - ★施設外就労・施設外支援は抵抗なく受け入れる
- 【連携支援】 ★容姿の意識、体力の向上の意識がでる
- 就労準備についてを本人に伝える  
大学相談で得た情報の共有化  
大学支援のフェイドアウト支援



調整役

訓練評価や生活面での評価を伝える。  
事業所での相談で得た情報の共有化



福祉事業生活に  
慣れてきた  
支援員にも相談  
出来る

1. 大学支援室から定期訪問、事業所に対しての聞き取り
2. 施設外就労等の経験によりの環境適応力の把握
3. 地域の障害者雇用市場の把握
4. 就職試験 → 2回のチャレンジ（1度目は不合格）
5. 地域障害者職業センターでのプログラム参加(『ナビゲーションシート作成コース』JST講座・GATB検査・MWS(簡易版)を受ける
  - ★専門機関からの評価を冷静に受け止め安定した精神状態が確保できる（モチベーションが上がる評価）
  - ★面接時も苦手な「伝える」が改善される

【連携支援】一度目の選考試験時の不安や緊張に対する支援方法  
企業に対して合理的配慮のポイント説明  
大学相談で得た情報の共有化（聞く力の高さ）



就労活動時において精神的面での支援のアドバイス



専門機関より評価が聞ける

企業連携会議への参加要請



# 就労後の支援（フォローアップ・定着支援）

【職場環境】 守秘義務が重んじられる仕事内容により職場適応

援助は社内では困難（帰宅時の駐車場で本人の聞き取り）

①人事担当者とは、定期的に企業の評価を確認する機会を持つ（支援が必要な場合には、連携会議実施の流れに）

②毎週金曜日、リエゾンに「週の出来事」を報告（言語伝達の状態把握）

\* 本人による週1回の電話連絡により仕事の状況や心情を把握し企業からの得た情報と比較する。（苦手意識があったアウトプットがアセスメントの源に） ← 伝えの技術は伸び安定している



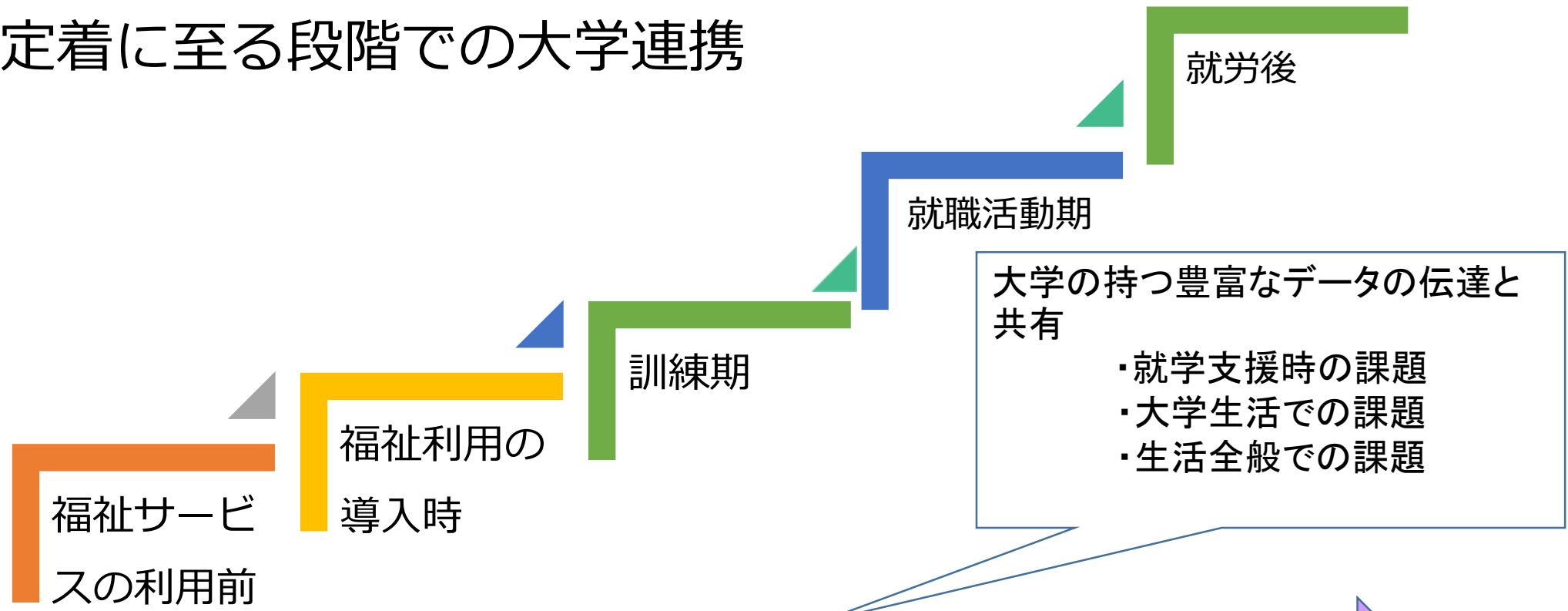
追跡調査

電話対応の評価・仕事内容の確認

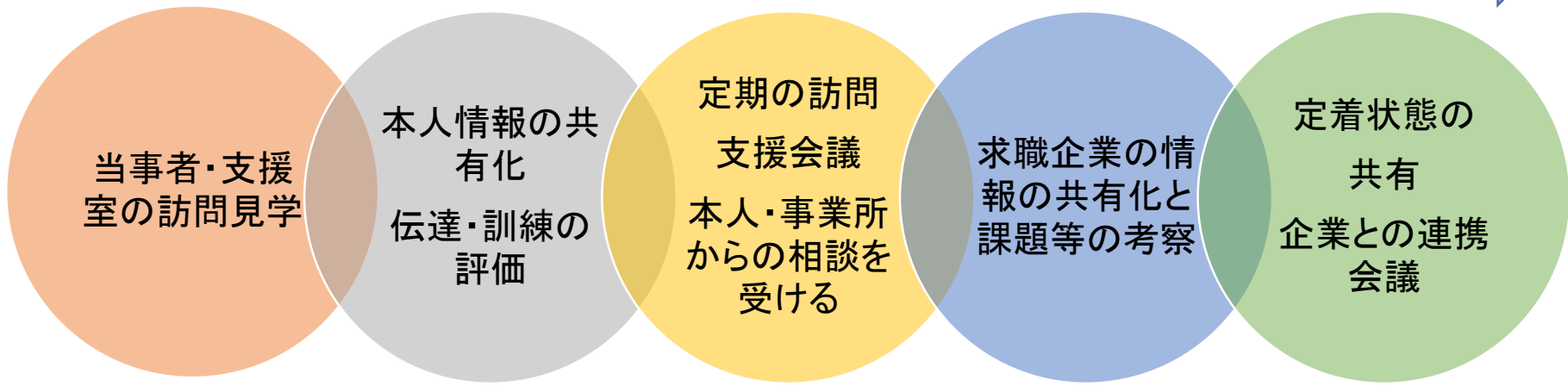


金曜日に  
リエゾンに電話し  
職場での様子を  
報告する。

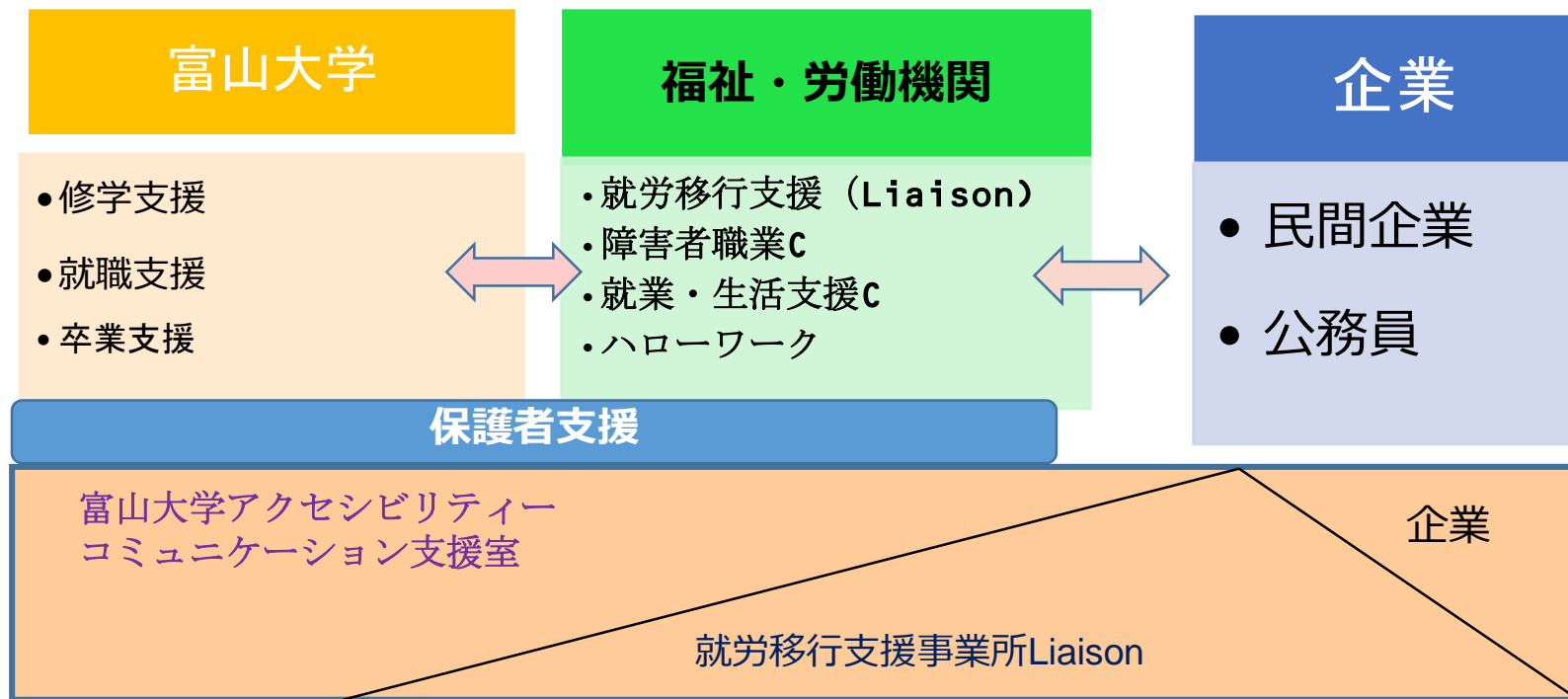
# 就労定着に至る段階での大学連携



支援課題について大学支援室は常にアドバイスを一緒に考えてくれる、



# 富山大学アクセシビリティコミュニケーション支援室との連携 支援の効果

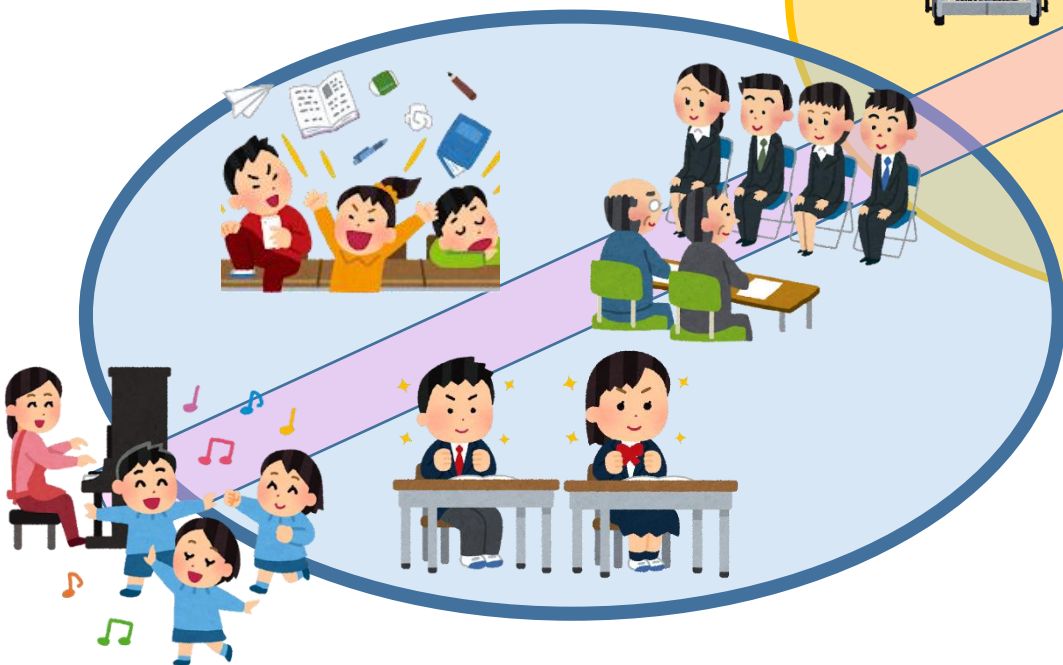


- ① 的確な評価・支援方法（会話を重要）の習得、エピソードの提供により、事業所利用開始時のインテークの質があがる。
- ② 個々人特性に応じた支援方法の教授、オンブズマンとしての評価により支援の質が高まる。
- ③ 大学による面談や状況の判断により支援がスムーズに！

# シームレス支援・合理的配慮の継承 (成長過程でのアセスメント)

専門家によるアセスメント  
 地域障害者職業センター  
 医療・発達支援センター

教育でのアセスメント



就労先でのアセスメント



福祉や職業訓練でのアセスメント

ご静聴ありがとうございました

